

昨年10～12月期の
産業処理量20%減

全産廃連が景気動向調査

全国産業廃棄物連合会
はこのほど、2008年
10～12月期の産業廃棄物
処理業に関する景気動向
調査の結果を取りまとめ
た。前年同期に比べ産業
廃棄物の処理量は20%以
上、売上高は10%以上
減少しており、産廃処理
業も景気悪化の影響を受
けていることが明らか
になった。

調査は、無作為で抽出
した全国の産廃協会会員
3530社を対象に行っ
た(回答率は33%)。調
査対象企業のうち、資本
額5千万円以下または従

業員数100人以下の中
小企業が90%を占める。

調査結果によると、昨
年10～12月期の産業廃棄
物の処理量は、3カ月の
平均で一月あたり約24
2万トと前年度同期と比
べ21・1%(中小企業
27・5%)減少した。12
月に限ってみれば24・1
%(同29・5%)の減少
となった。

処理量と同様に売上高
も前年同期と比べ13・5
%減少(中小企業15・5
%)、12月は14・5%
(同16・3%)減少した。
一方、売上高に比べ経費
などの売上原価は、前年
同期比3・0%の減少
(同6・5%)と、売上
高ほどの減少はなく、各
社の利益を圧迫している
ことが伺える。

08年7～9月期と比べ
た異変感については、処
理量、売上高ともに約6
割が「減少」と回答、
「増加」はともに1割に
なっていた。

平成21年4月1日
環境新聞